

第116回定時株主総会決議ご通知

平成29年7月27日開催の当社第116回定時株主総会におきまして、下記のとおり報告並びに決議されましたのでご通知申し上げます。

報告事項

- ①第116期(平成28年5月1日から平成29年4月30日まで)事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 - ②第116期(平成28年5月1日から平成29年4月30日まで)計算書類の内容報告の件
- 本件は、上記各事項の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 剰余金の処分の件

本件は、原案どおり承認可決され、期末配当金は、1株につき40円と決定いたしました。

第2号議案 取締役5名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、取締役に小林宏明、山本節夫、高吉良臣、岡耕一郎の4氏が再選され、新たに野村芳徳氏が選任され就任いたしました。

第3号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

第116期 報告書

平成28年5月1日から平成29年4月30日まで

業界のリーダーとしての自覚のもと、さまざまな角度からの提案を図り、新たな時代を拓いてまいります。



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

水産業界を取り巻く環境は、気候変動や国内外の経済情勢のもとで厳しい状況が続いている一方、前期に引き続き経営環境は比較的安定しておりました。当社グループでは、主力の漁業関連事業に関して営業力の強化を図っているほか、陸上用ネット部門の開拓にも努めております。

今後とも皆様の変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成29年7月

代表取締役社長 **小林宏明**

Q1 当期の市場環境と業績について教えてください。

当社グループの主力ユーザーである水産業界では、異常気象による海況異変や円高による水産物の輸出量の減少が懸念されることなど厳しい状況にあるものの、漁船漁業の水揚げ及び経営環境はおおむね安定しております。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、北海道地区等の定置網部門、海外旋網部門や陸上用ネットの施工工事の受注が順調で、前期と比べて増加しました。一方で、営業利益は、年数の経過した在庫の評価方

法を見直したことによる製造原価の増加や、将来に備えた試験開発研究への注力などから、前期と比べて減少しました。また、賃貸用の仕立作業場等の取壊しによる減損損失や環境対策引当金繰入額等で特別損失を計上しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は17,948百万円(前期比8.7%増)、営業利益は816百万円(前期比29.3%減)、経常利益は758百万円(前期比16.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は557百万円(前期比6.1%減)となりました。なお、当期の配当金は、1株当たり40円とさせていただきます。

Q2 経営課題の取り組みについてお聞かせください。

当社グループの経営は、主要営業基盤であるわが国の水産業界の動向や世界的に増加している水産物の消費の傾向に注視していく必要があります。漁船漁業による漁獲量の確保や水産物供給における養殖業の重要性は今後ますます増大するものと考えられることから、各種の要望に対応できる体制を構築していくことが重要と認識しております。

こうした現状を踏まえて、営業活動における専門性の強化を図っています。漁業部門においては、4つの事業部に分割し、各分野の専門性を重視した体制を構築済みで、顧客のニーズに合った提案、製商品の提供のスピード化を図ります。

また、海外事業展開を推し進めるため、海外へ人材派遣を積極的に行い、需要の掘り起こしと知名度の浸透を図ります。

加えて、生産体制の効率化と生産能力の向上に取り組んでいます。内製化の促進や各工程の省人化を進め、また、規格統一・在庫管理を徹底することで、顧客ニーズに合った適正在庫をそろえ、競争力強化を目指します。

それとともに、オリジナル商材の開発と差別化を図っています。産学官と連携し、複数の有望な共同研究開発事業を推し進め、将来的な収益力の強化を目指します。

Q3 中長期の経営戦略について教えてください。

平成28年5月に設定した当社グループの経営戦略の着実な実施を図っております。

海外売上高については、チリとタイの現地法人を中心とし

て、中南米・東南アジアに拡販を図ることで30億円の目標を掲げています。一方、高付加価値製品・サービスの開発と販売については、お客様の目線を忘れずに、他社との差別化を図っていきます。また、安定的な収入源として、原反・消耗品などリピート品の販売を強化してまいります。

経営体制については、連結グループ会社の人材、技術、資金における一元管理を推進し、技術の継承に取り組めます。そして、業界のリーダーとしての自覚のもと、さまざまな角度からの提案を図ることで、新たな時代を拓いてまいります。

Q4 来期の取り組みと業績予想をお聞かせください。

漁業関連事業では、世界的な魚食の盛り上がりにより、水産物の需要が年々増加しております。それに伴う漁業及び漁具資材の需要の高まりが見られます。こうした状況に対して、当社グループはオリジナル商材の販売を積極的に行うとともに、提案型営業の取り組み強化を図り、売上高及び収益の確保・拡大を図ってまいります。

陸上関連事業では、防球ネット等の施工工事部門は、引き続き堅調に推移するものと予想しております。主力商品である防虫網、スポーツネット、獣害ネットを中心にその他の産業資材を含め、積極的に拡販してまいります。

来期の業績予想は、売上高は19,000百万円、営業利益は1,200百万円、経常利益は1,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は700百万円であります。

配当については、1株当たり45円を予定しております。

引き続き株主の皆様のご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

漁業関連事業

14,709百万円 (82.0%)

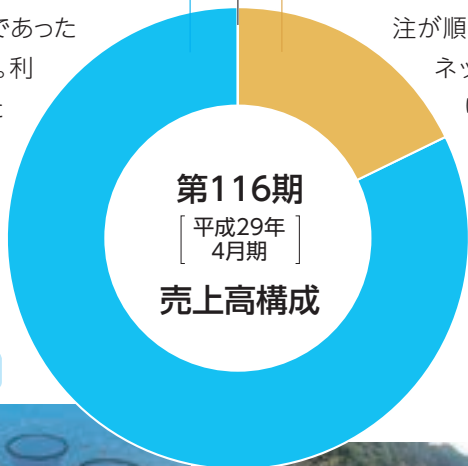
売上高は14,709百万円(前期比8.8%増)となりました。主な要因は、前期に引き続き北海道地区の定置網部門や旋網部門の受注が好調であったことにより、前期と比べて増加しました。利益面は、一部漁業者に急潮被害がでたことから、貸倒引当金の繰入額が増加したことが影響し、セグメント利益は645百万円(前期比38.7%減)となりました。

その他
40百万円
(0.2%)

陸上関連事業

3,197百万円 (17.8%)

売上高は3,197百万円(前期比7.6%増)となりました。主な要因は、防球ネット等の施工工事の受注が順調に推移したこと及び産業資材の安全ネット等の受注が順調であったことにより、前期と比べて増加しました。利益面は、売上高が増加したことにより、セグメント利益は171百万円(前期比67.2%増)となりました。



事業紹介



定置網



養殖網

定置網をはじめ、旋網、曳網、養殖網、海苔網など、漁業に欠かせない製品を数多く提供しております。また、漁場設定や漁場調査、漁場に適した網の設計、仕立といったソフト面のサポートも充実しております。さらには、漁獲された魚の販売や販売先の紹介



ロープ

など、漁労の現場に即した事業展開を心がけております。これからも最新技術を駆使して、お客様のご要望にきめ細かく対応してまいります。

事業紹介



イージーネット



獣害防止ネット

ご家庭の網戸や各種スポーツネット、建設現場から農業用途に至るまで、さまざまなシーンでご利用いただける製品を提供しております。中でも、防虫網は独自に開発した高耐候・高強度のポリオレフィン原糸を使用しております。焼却しても有毒ガスを排出せず、環境に優しい素材です。このほか、防球ネットや獣害防止ネット、土木・建築用ネット、防災ネットなど、活躍の場がますます広がっております。網のトップメーカーとして培った知識と経験をもとに、設計から施工、修理に至るまで一貫して対応してまいります。



防球ネット

お客様のニーズに即した旋網製品を提案

漁業では、海洋環境や漁業形態に応じたさまざまな漁網が用いられています。中でも、^{まきあみ}旋網漁業に用いられる漁網は、日本の近海で操業する小型タイプから遠洋海外で操業する大型タイプまで多種多様なものがあります。当社では、お客様のご要望にきめ細かく対応し、魚種や船の大きさ、海況、地理的条件に応じた製品をご提案しています。

^{まきあみ}旋網漁業で威力を発揮する「無結節網」

^{まきあみ}旋網漁業とは、魚群探知機・ソナー・目視でアジ、サバ、イワシ、カツオ、マグロなどの魚群を探索した後、船に搭載している漁網で魚群の回りを取り囲み、網の裾をワイヤーで徐々に締め、逃げられないようにして魚を獲る漁法です。

水中の魚は動きが素早いために大きな網が必要で、遠洋の中西部太平洋でカツオ、マグロを獲っている海外^{まきあみ}旋網船は、網の長さ(浮子網長)が1,600m、網の深さが200m、重量が50トン以上もある大きな網を搭載しています。

当社が製造している「無結節網」は結節がなくて水中での抵抗が少ないため、網の沈降が早いことから効率良く魚を獲ることができます。また、かさばらないため、船の限られたスペースに大きな網を搭載できるなど、^{まきあみ}旋網漁業において最も効果を発揮しています。

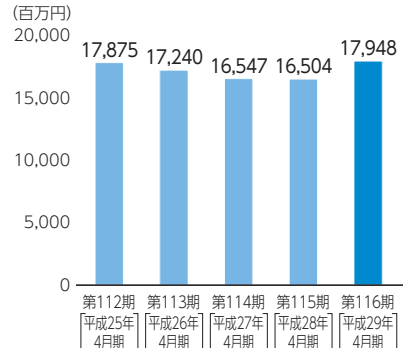


設計段階で網の形状と抵抗を予測・再現

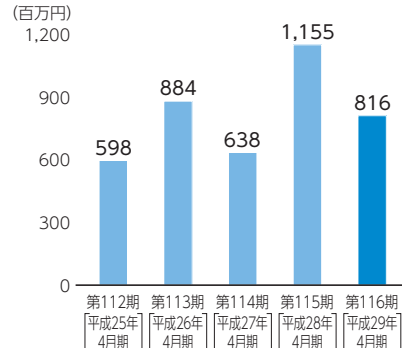
^{まきあみ}旋網漁業では、獲る魚種と操業方法によって1艘巻きや2艘巻き、単船方式、船団方式などさまざまな形態の^{まきあみ}旋網船があります。当社では長年蓄積したノウハウを生かして、お客様のニーズに合わせた製品を提供できます。また、産学連携で開発した「網地形状シミュレーションシステム(NaLAシステム)」により、網の設計段階から水中での形状と抵抗を事前に予測・再現することができるため、船ごとに最適な設計が可能です。

また、網に入った小型魚を逃がす目的で、目合いの大きい網地を採用、操業を継続しながらの資源保護にも取り組み、^{まきあみ}旋網漁業による魚の安定供給、自給力の維持・強化に寄与しています。

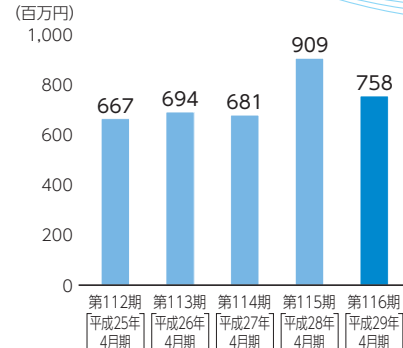
売上高



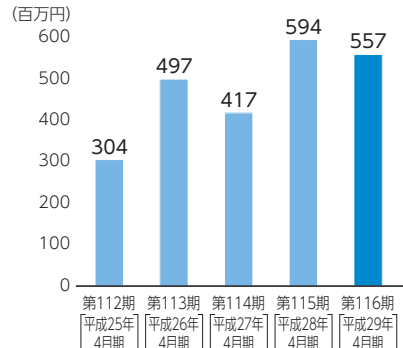
営業利益



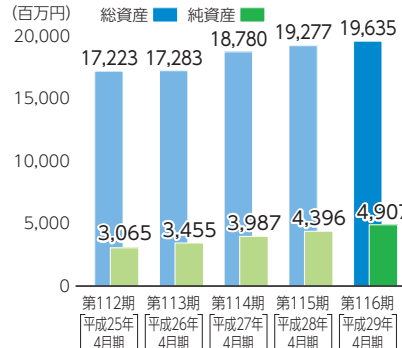
経常利益



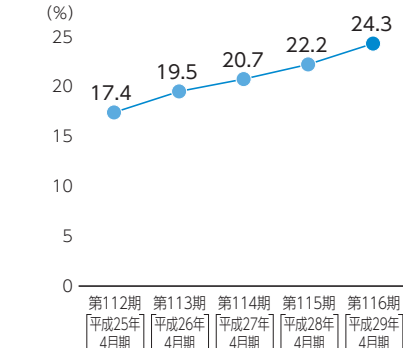
親会社株主に帰属する当期純利益



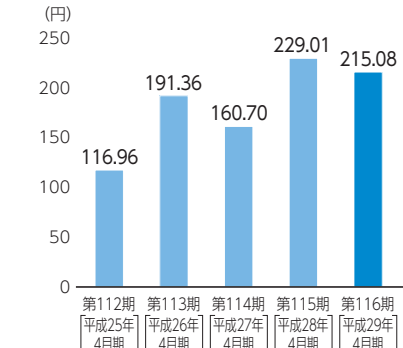
総資産 / 純資産



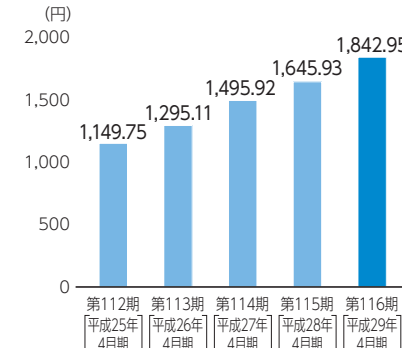
自己資本比率



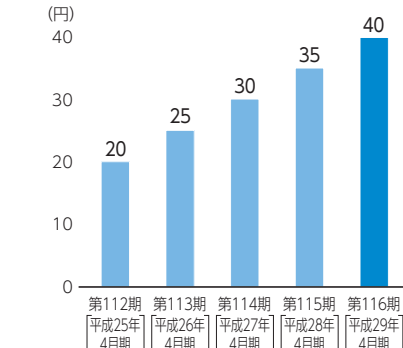
1株当たり当期純利益



1株当たり純資産



1株当たり配当金



※平成28年11月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。過去4年分は、当該株式併合を実施した場合の参考数値です。

※配当金額は平成28年11月1日実施の株式併合後の水準を基に算出しております。

会社概要

(平成29年4月30日現在)

設立 明治43年8月
 資本金 1,378百万円
 従業員数 270名(連結835名)
 東京本社 東京都港区新橋二丁目20番15-701号
 福山本社 広島県福山市一文字町14番14号
 工場 函館・福山
 事業所等 札幌・網走・石巻・東京・高岡・福山・九州・紋別・釧路・八戸・いわき

取締役及び監査役

(平成29年7月27日現在)

代表取締役社長	小林宏明
代表取締役専務	山本節夫
常務取締役	高吉良臣
常務取締役	杉森和夫
取締役	小林重久
取締役	西郷清彦
取締役	北方浩樹
取締役	野村芳徳
取締役	岡耕一郎
常勤監査役	小柴訓治
監査役	立川隆造
監査役	佐藤卓己

主要グループ会社

(平成29年4月30日現在)

【国内】
 多久製網株式会社
 株式会社泰東
 日東ネット株式会社
 有限会社温泉津定置
 日本ターニング株式会社
 CNK株式会社
 【海外】
 レデス・ニットー・チリ・リミターダ(チリ)
 タイ・ニットウセイモウ・グローバル Co.,Ltd.(タイ)

株式の状況

(平成29年4月30日現在)

発行可能株式総数 6,400,000株
 発行済株式の総数 2,605,000株
 株主数 3,139名

株主メモ

事業年度 毎年5月1日から翌年4月30日まで
 定時株主総会 毎年7月下旬
 基準日 定時株主総会・期末配当：毎年4月30日
 中間配当：毎年10月31日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日。
 株主名簿管理人及び
 特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 【郵便物送付先】 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
 【電話照会先】 0120-782-031(フリーダイヤル)
 公告方法 電子公告
 <公告掲載URL>
<http://www.nittoseimo.co.jp/>
 但し、事故その他のやむを得ない事由によつて電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 上場証券取引所 東京、名古屋